

建築文化奨励賞

一般建築物

私たちのまちの「三角帽子」

流山の集会所(前ヶ崎みどり自治会館)

その形状から「三角帽子」と名付けられ親しまれているこの集会所は、既存自治会館の老朽化による建替え。敷地は、全体に緩やかに南に傾斜した住宅地の突き当たりの細長い公園の一面、南側が高い崖地の谷戸で、年間を通して終日陽の当たらない条件の悪い場所である。加えて予算等困難な課題を多く抱えた集会所を、地元育ちの若い建築家が中心となり、子どもたちも含めた地域住民が「集会所をつくることは街の未来を創ること」を合言葉に、何回ものワークショップを重ね創り上げたという。

公園に続く敷地は241.39㎡、延べ床面積109.65㎡、鉄骨造平屋建て、最低限の設備と収納スペースを持ったワンルームの集会所である。「日の光」を設計のテーマとして、冬至の光の状況を綿密に分析し、屋根の上部にしか届かない日差しを、高く持ち上げた屋根の稜線の隙間から効率よく室内に取り入れている。三方向を壁、西側に大きく開いた集会室をウッドデッキが取り囲み、公園と一体化した伸びやかな空間を作り上げている。

建物の保守・管理・運営等多くの問題を抱えているのでは、と気がかりな点もあるが、皆で創った三角帽子は、「これからの街づくり」の拠点として発展するばかりではなく、建替え問題に直面している近隣自治会にも良い影響を与えるのでは、と高く評価した。
(夏目 幸子)

建築主：前ヶ崎みどり自治会
設計：福井啓介+有限会社アイエフ
施工：有限会社アイエフ
所在地：流山市前ヶ崎2-90



大通りからいつでも明るい空間を見る事が出来る



夜も地域を明るく照らす存在となっている

(撮影/大谷 遼)

9

建築文化奨励賞

住宅

中古物件を楽しく住みこなす

バスキッチンの家

二人の子のいる建築家夫婦が、元2DK、約40㎡の一戸をワンルームに改修し、自分たちで住んでいる。壁をひとつ取り払う程度のフツウの改修ではない。窓側の2室を大胆にもバスとキッチンにするというものだ。日中、おかあさんは台所にいることが多く、お風呂は家族が最もくつろぐ空間である。小さな子どもは水遊びが好きだ。住まいで今いちばん大切な空間をいちばんいい窓辺に持つてくるのは少しもおかしくない。子どもが小さいうちは、狭くてもいつも40㎡丸ごと使えるほうが体感的な面積は広がる。

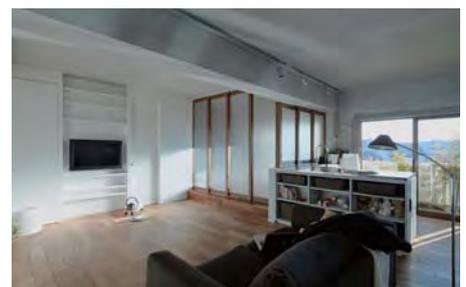
この住戸のあるマンションは、現行容積率では既存建物を大きく下回る延べ床面積しか確保できないため、老朽化していても不動産経営的には建て替えられない。このような訳あり中古物件は、家族が育ってくる時期に、失敗を恐れず住みこなすトレーニングをするにはもってこいだ。

更新時期を迎える建物が増える一方、既存不適格で建替えの現実的でない建物も顕在化してきている。しかも住宅需要は減り、時代遅れの中古物件ほど余るのは確かだ。本プロジェクトは、マンションの一室の改修でしかないが、ライフステージに合わせて自在に住みこなしていく気楽で豊かな住遍歴を提案することで、ストック時代の建物との付き合い方について再考を迫っている。
(岡部 明子)

建築主：S氏
設計：鹿内健建築事務所一級建築士事務所
施工：有限会社伸栄
所在地：船橋市



全体写真



浴室利用時

(撮影/鳥村鋼一写真事務所 鳥村 鋼一)